

吳市

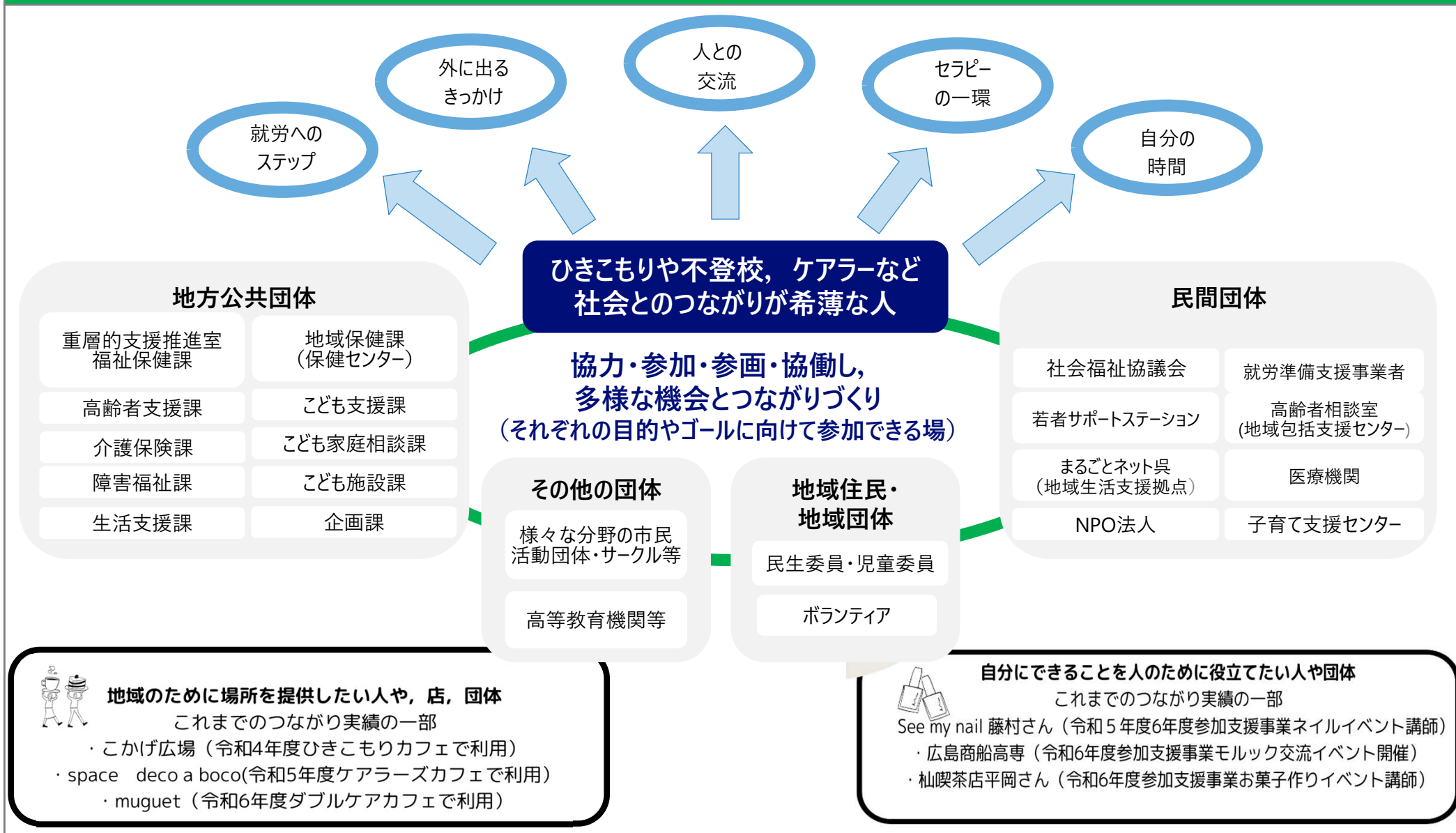


【A. 取り組みの全体像】

1.自治体の概要						
	自治体名		呉市	担当部局名	福祉保健課 重層的支援推進室	人口 203,549人 (令和6年3月31日時点)
	自治体内連携	庁内連携部局 (メイン)	重層的支援推進室（福祉保健課）		庁内連携部局 (メンバー)	高齢者支援課・介護保険課・障害福祉課・生活支援課 地域保健課（保健センター）・こども支援課 こども家庭相談課・こども施設課・企画課
		連携内容	庁内関係部署との横断的な連携体制の構築 庁外関係機関との連絡調整		連携内容	必要に応じて，事業内容の展開を検討 関係機関との連絡調整
2.形成をめざす地方版連携PFの姿						
従前の取り組み ※重層の取り組み，外部組織連携，地域コミュニティ等	令和4年度から重層的支援推進室を設置し，重層的支援体制整備事業として，属性を問わない相談支援，参加支援，地域づくりを実施。その中で，世代・分野を超えて各事業で協働できそうなこと，また，共通の課題等について，庁内福祉関係各課と呉市社会福祉協議会で，ワーキングを行った。		実現したい状態 ※構築する仕組み／支援対象の住民を取り巻く環境	今年度のゴール	・PF メンバーがお互いの取組や事業を把握し，現在感じている課題を共有する。 ・福祉分野だけでなく，福祉以外の機関とも連携できる体制を整える。	
				最終的なゴール	・PF が孤独・孤立対策の継続的な協議の場として機能する。 ・支援機関同士の関係性が深化し，連携の強化が図られ，支援の幅が広がり，新たな支援策を創出する。	
3.地方版連携PFの外部連携体制				4.PF連携による価値や工夫_考え方		
地方版連携PF	参画メンバー	行政，社協，NPO法人，精神科・心療内科クリニック（医療機関），市民活動団体，高等教育機関等		 ・社会とのつながりが希薄な方（生きづらさを抱えている方）とつながっている団体等と連携することで，社会とつながるための支援策（社会資源の創出，マッチングなど）の幅が広がり，また，支援につながる可能性も高くなる。 ・PFを形成することで，現在困難さを抱えている方だけでなく，全ての方を対象として，孤独を予防するという観点での取組も推進できる。		
立ち上げ年度 令和7年度 (予定)	選出・打診時の工夫	目指している取組に連携不可欠な団体				
地域協議会	参画メンバー	-				
立ち上げ年度 令和7年度 (予定)	選出・打診時の工夫	-				

【B.連携PFイメージ】

5. 連携PFのイメージ図



【C.試行的事業】_一覧

6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業の
ポイント・工夫

- 実態調査を行い、その調査結果にもとづいて今後目指すべき孤独・孤立対策の方向性や支援メニューの組み立てを行う。
- 市民に対する普及啓発を図りながら、当事者に寄り添う各種イベントを設計する。

事業名称	事業内容	目的／期待効果・KPI	実施時期	発注先（予算）
1 実態調査	【調査対象及び調査対象者数】 - 満18歳以上の個人3,000名 【調査実施期間】 - 令和6年9月27日（金）～令和6年10月31日（木）孤独に関する事項、孤立に関する事項、居場所に関する事項、属性事項 【調査方法】 - 郵送により調査票を送付、郵送またはインターネット回答による回収 【回収率】 - 有効回答1,198件（有効回答率：39.9%）	- 性年代毎の特徴を把握 - 市民が求める居場所のイメージについて把握 成果検証項目 - 呉市では、若者と比較して中高年の孤独感が高く表れている。 - 安心できる居場所が「ない」と回答した人ほど、孤独感を感じやすく、また孤立する傾向も高い。	✓ 令和6年10月～11月	株式会社ウェルウェル（約190万円）
2 講演会	- 孤独・孤立問題の市民への普及啓発・支援の機運醸成を目的として、絵本の朗読、パネルディスカッションで構成する講演会を開催した。 - パネルディスカッションには、内閣府大西参与、臨床心理士、地域のコミュニティ形成に関する実践者、地元の大学生が登壇した。	- 市民に孤独・孤立という社会課題に関心をもってもらうこと 成果検証項目 - 参加者100名 - 講演会の満足度として、「大変良い」「良い」を選んだ人が85%以上。 - 講演会に参加する前後で「人と人とのつながりへの意識が「変わった」と答えた人が60%以上。	✓ 令和6年10月20日（日）	講師謝金、手話通訳・司会など（約30万円）
3 パネル展	市民や支援機関に対して、「孤独・孤立」は誰でも起こりえる問題であることの周知を図り、孤独・孤立に悩む人が状況に応じ、相談や支援を受けることができる「相互に支えあい、人と人との「つながり」が生まれる社会」の実現を目指すべく、ケアラーや引きこもりの家族、LGBTQの方に孤独を感じた体験や「つながること」についてインタビューし、それをまとめたエッセイを展示するパネル展を市内各所で開催した。	- 市民に孤独・孤立という社会課題に関心をもってもらうこと - 当事者の方に、孤独・孤立を抱えているのは「自分だけではない」と感じてもらうこと 成果検証項目 - パネル展の満足度として、「大変良い」「良い」を選んだ人が90%以上。 - パネル展に会場した前後で「人と人とのつながり」への意識が「変わった」と答えた人が60%以上。	✓ 令和6年10月～11月	パネル展示作成（約10万円）

7. 次年度以降に向けた事業等の案

※PDCAサイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ（あれば）を例挙

重層的支援体制整備事業の地域づくり、参加支援事業を利用して、PFの活性化を図り、PFに参加する機関・団体の増加を図る。

8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響

「孤独・孤立」という社会課題解決の重要性は認識されつつあるものの、庁内関係部署含め、支援機関等の積極的な関与までは至らなかった。

【C.試行的事業】_1.実態調査

概要

工夫点

- 調査対象者：18歳以上の市民から無作為抽出した3,000人
- 調査方法：郵送により調査票を送付、郵送またはインターネット回答による回収
- 調査期間：令和6年9月27日（金）～令和6年10月31日（木）
- 設問数：孤独や孤立に関する事項、年齢、性別等の属性事項等28問
- 回答者が郵送・インターネット双方の回収を選択できるようにし、回収率アップを試みた。
- 呉市独自の設問として、居場所に関する設問を設計し、孤独の感じ方等とのクロス分析を行った。

ねらい

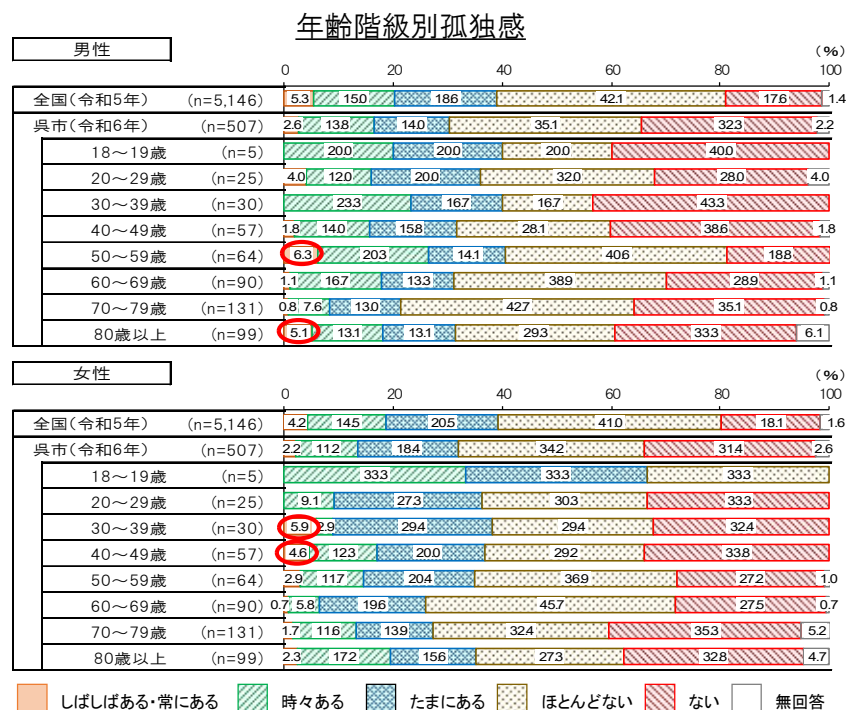
- 呉市における孤独・孤立の実態を把握し、これに関連する施策を実施している関係課において、対策を検討する上での基礎資料を得ること

結果

- 有効回収数1,198件（有効回答率39.9%）
- 呉市では、若者と比較して中高年の孤独感が高く表れている。
- 安心できる居場所が「ない」と回答した人ほど、孤独感を感じやすく、また孤立する傾向も高い。

年代別孤独・孤立の実態

- 孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、男女・年齢階級別にみると、男性では50歳代及び80歳以上、女性では30歳代及び40歳代で高い。



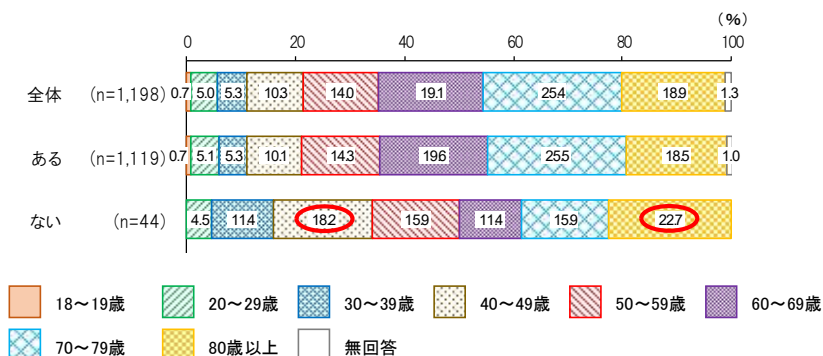
安心できる居場所の有無別孤独感と孤立の傾向

- 安心できる居場所が「ない」と回答した人は孤独感・孤立の傾向が高い傾向にある。
- 安心できる居場所が「ない」と回答した人の割合は、40歳代及び80歳以上において高い。

安心できる居場所の有無別孤独感と孤立の傾向

設問	回答	n(人)	孤独感「しばしばある・常にある」		孤立の傾向あり	
			度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)
あなたにとって、安心できる居場所がありますか。	ある	1,119	19	1.7	30	2.7
	ない	44	10	22.7	20	45.5

安心できる居場所の有無別年齢階級



【C.試行的事業】_2.講演会

概要

- ・孤独・孤立問題の市民への普及啓発・支援の機運醸成を目的として、絵本の朗読、パネルディスカッションで構成する講演会を令和6年10月20日(日)に開催した。
- ・パネルディスカッションには、内閣府大西参与、臨床心理士、地域のコミュニティ形成に関する実践者、地元の大学生が登壇した。

工夫点

- ・2部構成とし、第1部で絵本の読み聞かせを用いて人と人とのつながりについて課題提起することで、幅広い年代の関心を集めるよう工夫した。その上で第2部では、地域で活動する方に登壇を依頼し、自らの経験に基づいてお話いただくことで、来場者に孤独・孤立という社会課題を自分事として感じてもらえるよう設計した。

ねらい

- ・市民に孤独・孤立という社会課題に関心をもってもらうこと

結果

- ・参加者100名
- ・アンケート結果より、講演会の満足度として、「大変良い」「良い」を選んだ人が85%以上を占めた。講演会に参加する前後で「人と人とのつながりへの意識が「変わった」と答えた人が60%以上を占めた。

講演会ポスター

- ・市役所本庁舎及び各市民センター、子育て支援センター（2箇所）、社会福祉協議会各支所、児童館（3箇所）に、ポスターの掲示とチラシの配架を依頼した。
- ・アンケート結果より、「チラシ」で本イベントを知った方が最も多く4割を占めた。

令和6年度
孤独・孤立対策事業

つながる講演会

～つながりが明日のチカラになる～

孤独・孤立は人生の中で誰にでも起こりうるものです。
あなたの家族や周りの人も、もしかしたら、今、悩みを一人で抱えているかもしれません。
ひとりりて不安を抱えている人に寄り添い、手を差し伸べられる社会を目指して。
人と、社会と「つながる」後押しとなることを願って、講演会を開催します。
ぜひご参加ください。

参加費無料 / 要事前申込み（300名） / 手話通訳あり

光の妖精「ヒカリノ」

日時 令和6年10月20日(日) 14時00分～15時30分
(開場13時30分)

場所 広まづくりセンター 3階ホール
(呉市広古新聞2丁目1番3号 広市民センター)
※公共交通機関をご利用していただく方、市民センター駐車場を
利用された場合、無料駐車場はございますので、ご了承ください。

内容 第1部 (14時05分～14時25分) : 絵本からみえる人と人とのつながり
『もともち』 谷川 俊太郎・文/和田 誠・絵 玉川大学出版部
第2部 (14時25分～15時30分) : パネルディスカッション
『つながりが明日のチカラになる』

申し込み 9月20日(金)～10月15日(火) 17時までに
申込みフォームからお申込みください。
当日、お席に余裕がある場合は、事前申込みが
なくても、ご参加可能です。
(申込み外部リンク)
<https://1c35ab61.form.kintonapp.com/public/00000d9d7b48ee882f2b>

【お問い合わせ先】
呉市福祉保健部 福祉推進室
〒737-8501 呉市中央4丁目1番6号 呉市役所本庁舎2階
TEL: 0823-25-5715 E-mail: zysou@city.kure.lg.jp

登録者紹介

第1部 14:05～14:25

岩竹 香織さん インタビュアー・ライター
放送局、図書館、設計事務所勤務を経て「聞く」仕事へ。言葉を発してくれた相手の、言葉にならない心を感じながら日々対話を重ねている。

第2部 14:25～15:30

大西 連さん 内閣府孤独・孤立対策推進室 孤独・孤立対策推進参事
認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい理事長、新宿ごはんプラス 共同代表。20代前半よりホームレス状態の方、生活困窮された方への相談支援に関わる。生活保護や社会保険制度などの問題について、現場からの声の発信や政策提言を行うとともに、令和3年6月に内閣府孤独・孤立対策推進室政策参事に就任し、政府の孤独・孤立対策の政策立案に携わる。令和6年4月から現職。

神崎 洗一さん 医療法人正徳会呉みどりヶ丘病院こどもとそだち支援室 臨床心理士・公認心理師
NPO法人風の家、淡田病院勤務を経て、現在は呉みどりヶ丘病院に勤務し、児童思春期精神科外来・成人発達外来に携わる。特に不登校や自傷、市販薬依存など、子どもや若者の行動問題に対する支援に力を注ぐ。訳書に『閉居症スペクトラム障害とアルコール依存の始まりから回復まで』（分館翻訳、マッシュ、ティンズリー、サラ・ヘンドリックス著、明石書店、2022）がある。

佐々木 サラさん 雑誌とカフェバー「スキナダグ。」 店主
広島県立広島高等学校卒業。広島修道大学在学中に、まちづくりとプロジェクトマネジメントについて学び、地域のコミュニティづくりに関心を持ち、研究してきた。授業の一環でアメリカ・ポーランドを訪れたことで、よりまちづくりに興味を持ち、卒業後は、「地方創生」を理念に掲げる企業に就職。会社員をする一方で「スキナダグ。」という雑貨を運営する。現在は、会社を退職し、店舗経営に専念中。

古森 ふきさん 県立広島大学地域創生学部地域創生学科 地域産業コース4年
呉市立呉高等学校卒業。大学でマーケティングを学ぶまでに所属し、呉市通商商店で勤務した魅力のな人やお店をSNS (YouTube担当) で発信し、商店街の活性化に貢献。活動の様子は、RCCテレビ「イマナマ!」で取り上げられた。授業の一環で、竹原市田万里町の活性化をテーマに制作した短編ドキュメンタリー映画は、第11回新米展（第75回広島県美術展）映像系部門で奨励賞を受賞。

アンケート結果（自由記述抜粋）

- ・人と人とのつながり方は千差万別で、何ら無理強いや強制されるものではないが、地域や接する相手が何に価値を持ち、どういつながりを求めているかをよく考えたり、気づいたりできたらいいと思う。
- ・つながりは選択自由。つながらないのも大事な選択なんだなあと思いました。私は、どちらかというと、つながって欲しいと思って、そういう場を作っていきたいと思っています。まずは、行動することだなと感じました。
- ・人によってつながり方は違う。それを自分で選べる自分になりたい。人のことを気にする自分だけど、自分にとって何がいいのかわからないのか、自分をみつめる人でありたいと思った。また、仕事柄、子育て支援の子ども、親にも、それぞれ選ぶ道ができるよう、営業で伝えられたい。

▼第1部「絵本からみえる人と人とのつながり」



▼第2部パネルディスカッション「つながりが明日のチカラになる」



【C.試行的事業】_3.パネル展

概要

- ・ケアラーやひきこもりの家族、LGBTQの方に孤独を感じた体験や「つながること」についてインタビューし、それをまとめたエッセイを展示するパネル展を市内各所で令和6年10月下旬～11月下旬にかけて開催した。

工夫点

- ・介護支援専門員連絡協議会にケアマネへの広報を依頼し、障害分野については、地域生活支援拠点会議にて広報を行った。その他、民生委員児童委員協議会会長会議にて広報し、地区の協議会にて広報及びチラシの配布を依頼した。また、孤独・孤立調査の際にチラシを同封する等、広報に力を入れた。

ねらい

- ・市民や支援機関に対して、「孤独・孤立」は誰でも起こりえる問題であることの周知を図り、孤独・孤立に悩む人が状況に応じ、相談や支援を受けることができる「相互に支えあい、人と人との「つながり」が生まれる社会」の実現を目指す。

結果

- ・アンケート結果より、パネル展の満足度として、「大変良い」「良い」を選んだ人が90%以上を占めた。パネル展に来場する前後で「人と人とのつながり」への意識が「変わった」と答えた人が60%以上を占めた。

パネル展ポスター・当日の様子

- ・以下の日程、場所で開催した。
- ・10月17日（木）～10月22日（火） 広市民センター
- ・10月23日（水）～10月29日（火） 安浦まちづくりセンター
- ・10月30日（水）～11月5日（火） 昭和まちづくりセンター
- ・11月21日（木）～11月24日（日） 市役所本庁



孤独・孤立対策事業

つながるパネル展

孤独・孤立は人生の中で誰にでも起こりうるものです。
あなたの家族や周りの人も、もしかしたら
今悩みをひとりで抱えているかもしれません。
一人で不安を抱える人たちに寄り添い、
手を差し伸べられる社会を目指して、
人と、社会と「つながる」後押しとなることを願って
呉市4カ所の会場で下記の日程でパネル展を開催します。
お近くの会場にぜひお立ち寄りください。

開催場所・期間

広市民センター1階ギャラリー	10月17日(木)～10月22日(火) (10月20日のみ) 3階ホールホワイエ
安浦まちづくりセンター	10月23日(水)～10月29日(火)
昭和まちづくりセンター	10月30日(水)～11月5日(火)
市役所本庁舎1階	11月21日(木)～11月24日(日)

主催：呉市重層的支援推進室
[連絡先]0823-25-5715



アンケート結果（自由記述抜粋）

- ・人とつながる大切さを改めて感じました。1人でも多くの人が一じゃないと思える社会になってほしいです。
- ・自分と夫とのこと、息子のことで悩んでおり、孤独を感じることもあり誰かに相談できたらなと思っていたところ、このパネル展に出会いました。
- ・小さいことでも本人にとってはすごく大きな意味があるなと思った。気が付けるように周囲にアンテナを張って過ごしていこうと思います。
- ・周りにつながるところがあることを知り、助けてと言えるところ、共感してもらえるところがあるのを知って力をもらい頑張れると思った。

【D.PF構築プロセスにおける留意点】



【E.ブレイクスルー要因】 参加支援事業を他部署と連携しながら、個人ではなく団体とイベント等を企画したこと

令和6年4月

令和6年8～9月

令和7年3月

取り組み課題

- PFとして支援対象とする属性やテーマがなかなか決まらず、室内で話し合いを続ける期間が長かった。

その後の変化

- 福祉の枠にとどまらず、スポーツ、ものづくり、美容・ファッションなどのテーマのイベントやワークショップ、居場所づくりを通して、社会とのつながりが希薄な人が外に出るきっかけをつくることを目的に、PF図を描くことができた。

アクション／ブレイクスルー要因

- 参加支援事業にて、これまでは重層的支援推進室でテーマを決めた後、講師を地域住民等から選んでお願いする流れであったが、ある回で企画課と共同で「モルック（ニュースポーツの一種）」を設定し、域内の広島商船高等専門学校に協力してもらった。
- 広島商船高等専門学校はモルック普及を目的としており、それを果たすことができ、室としては新しいテーマで活動を行い、支援の幅を広げることができた。このように、両者がWin-Winの関係を構築することができるようなテーマが設定できれば、支援の幅が広がると感じた。